９ 月 定 例 教 育 委 員 会　 会 議 録

１　開　催　日　　令和８年８月 27 日（木）

２　開 催 場 所　　市役所新館　９階　191 会議室

３　出席した委員　　小南教育長、溝口委員、土屋委員、小林委員、中山委員

４　出席した職員　　鹿間教育総務部長、尾崎教育指導部長、
福本教育総務次長、藤原教育指導部次長
井上教育総務部部活動地域展開推進担当参事、
岡本教育指導部学校教育担当参事、
今津教育指導部教育支援推進担当参事、
中川教育総務課長、藤田部活動地域展開推進室長、
大崎学務課長、岡本社会教育課長、
城学校教育課長、岡本教育支援課長、
窪田教育総務課副課長、太田教育総務課管理調整係長

５　傍　聴　者　　なし

６　議 事 の 要 旨

○　開　会　　午後１時 57 分

○　会議録署名委員指名のこと
　中山委員に決定

○　８月定例教育委員会の会議録報告承認のこと
（事務局より会議録朗読報告）
　承認

○　会議公開の可否決定のこと
　専決報告３「市内教職員の人事内申について」、
　専決報告４「教頭の採用に係る内申について」、は、非公開とすることに決定

（専決報告）

1　加古川市社会教育推進員の解嘱及び委嘱について

（教育指導部次長から説明）

承　　認

教 育 長　：　地区ごとの役員の交代か。

事 務 局　：　その通りである。

2　加古川市少年補導委員の解嘱について

（教育指導部参事から説明）

承　　認

教 育 長　：　辞任理由は確認しているのか。

事 務 局　：　体調不良により継続が難しい、と確認している。

（協議事項）

1　加古川市立学校校区審議会委員の委嘱又は任命について

（教育総務部次長から説明）

原案可決

教 育 長　：　今年の審議予定はあるか。

事 務 局　：　今年度について、今後の審議予定はないが、４月 28 日に、両荘みらい学園の通学区域特認校制度について審議した。

2　令和９年度加古川市立加古川養護学校高等部第 1 学年の募集定員について

（教育指導部参事から説明）

原案可決

教 育 長　：　入学者見込数に十分対応できる募集定員にしているということか。

事 務 局　：　その通りである。

○　次期定例教育委員会予定日のこと

10 月 1 日（木）午後２時 00 分から開催することに決定

○　教育長諸報告

（１）兵庫県教育委員会連合会夏季研修における講演について

８月 20・21 日に開催された兵庫県教育委員会連合会夏季研修会に参加した。

参加した 20 日は講演が２題あり、１つ目は、兵庫教育大学の教授である森田啓之先生より「部活動の地域展開の現状と課題」についてであった。

森田先生が一番重視することは、「実施主体である地域クラブを取りまとめる運営団体をきちんと作っていくこと」という意見であった。

次の講演は、神戸大学の教授である伊藤篤先生より「幼保小の架け橋教育の推進に向けて」についての講演であった。

幼児期に身に付けていかなければならない能力として、一番大切なものは「非認知能力」である。特に、非認知能力の中でも「実行機能」（自分の行動や思考を制御する過程のことで、特に何らかの目標に向けて、その目標達成・目標到達を阻害する行動を制御する能力）は、幼児期に急激に発達し、児童期から青年期にかけて緩やかに発達が続く。

伊藤先生から「こどもが成長して大人になった際の幸福感（Well-being）を支えていくためには、幼少期のこどもに対する教育の質を高めるとともに、保護者に対する支援（教育・福祉的な介入）がとても重要である。家庭的に非常に厳しい状況にあるこどもに対する貧困の連鎖を絶つためには、こどもだけへのアプローチではなく、保護者に対する支援も欠かせない」という説明があった。

今年行われた全国学力・学習状況調査の本市の児童生徒質問紙の結果からも、例えば、「家に本が何冊あるか」の質問に対して「ほとんどない」と答えるこどもについては、調査結果もかなり低い。また、「家で全く勉強しない」と答えたこどもが、中学３年生でも全国的に増えており、そういったこども達の調査結果も、他のこども達と比べてかなり低いというような実態がある。

こういった家庭的に困難を抱えているこどもたちに対しての支援について、もう一度踏み込んで考えなければならない。

○　教育委員諸報告

〔中山委員から〕

（１）インフルエンザＡ型感染症について

東京において、インフルエンザＡ型の流行が警報レベルになってきている。加古川市の感染症情報でも、この１週間でインフルエンザＡ型が急増している。地域的には、平岡町が多い。２学期が始まると学校等でも蔓延する可能性がある。こども達の体調に留意して欲しい。

（２）内科健診・側弯検診について

８月 25 日に、加古川市・稲美町・播磨町の、学校医と養護教諭が参加する健診担当者会議を開催した。

現時点では、眼科・耳鼻科は問題なく順調に行っているとの報告があった。内科健診と側弯検診では、これまで脱衣による診察についての問題があり、クレームが医師会の事務局と教育委員会に寄せられ、保護者対応をしていただいたこともあったと聞いている。今年は、内科健診に関するクレームは教育委員会にあったか。

中学校においての同性医師による内科健診の実施など、大きな混乱なく実施できているのは、学校医、養護教諭、教育委員会で協議を行い、各担当者の努力の積み重ね

だと感じている。ただ、内科健診は、相応しくない服装について案内をしているにも関わらず、確認されていないように感じることもあるため、今年は県で動画も作成しているところである。整形外科医の先生からは、側弯検診において、今の診察方法が大事であると説明することや、その動画などにより、徐々に混乱は少なくなってきているとの報告があった。今後も、更に健診の必要性やメリットをこども達に伝える必要があると考えている。

脊柱側弯症という病気は、1年間で急激に悪化することもあり、病気を早く見つける事も大事になる。そういった取組みを教育委員会と学校と含めて進めていきたい。

このような健診について質問は、議会などで出ているか。

事 務 局　：　現時点では、内科健診に関するクレーム等は来ていない。

教 育 長　：　最近は、市議会での質問も出ていない。
中山委員の貢献により、他の市町ではできないような取組みができている。健診が嫌だから学校に来ないというこどもがいたが、それを改善できたことは、大変大きな成果である。

〔小林委員から〕

（1）兵庫ひまわりフェスティバルの参加報告について

人権月間である８月に、兵庫県の人権を考える「兵庫ひまわりフェスティバル」が開催されており、今年は三木市で、大島花子さんの講演会後、トークショーがあった。

大島さんからは、「人権に関して２つ大事なことがある」とお話があった。１つは「他人ではなく、自分を大事にしないと他人を大事にできない。自分自身、何歳になっても、年を重ねても常に大事にすること」であった。高校生のお子さんがいらっしゃるが、「彼ばかりに付きっきりではなく、自分の人生を歩んでいくこと、そういう背中を見せることが、言葉ではなく彼の人生に繋がっている」とお話され、とても感銘を受けた。

もう１つは、「父である坂本九と比べられることの多い人生の中で、『自分を見失わないこと』、『他人と比べないこと』が、しっかり自分を維持するモチベーションになっていること」であった。他者と比べず、自分自身が「どうなりたいか」をしっかり持ち続けることの大切さを教えていただいた。

また、わが子やその友人と人生ゲームで遊ぶ中で、こども達がお金に関する知識を持っていないことを知り、昨日、少年院で行った授業の題材として「お金」を選択した。NISA や税金等、世の中のお金の流れを授業に取り入れ、こども達の「お金」に対する捉え方を知った。

小学生でも金銭トラブルがあると聞くが、人生ゲームでも、世の中のお金の流れについて現場感覚で十分味わうことができ、金融については、とても大切な教育だと感じた。

教 育 長　：　金融については、使い方や管理方法を日本の教育の中では教えられていない。非常に大切な内容である。

○　教育総務部長諸報告

（１）就学援助の認定について

就学援助の認定について報告した。

（２）かこ☆くらに係る取組みについて

かこ☆くらに係る取組みについて報告した。

委　　員　：　こども達のニーズに対して、地域クラブの数は確保できているのか。たとえば、吹奏楽の活動場所が足りないなど、あれば教えてほしい。

事 務 局　：　現在、約 200 の部活動があるが、調整中も含めると 180 超の地域クラブが立ち上がろうとしている。クラブ数としては揃ってきたが、種目の偏在が見られる。吹奏楽についても、ある程度数は揃ってきているが、活動地域別に見ると、距離が遠く、なかなか吹奏楽に参加できない可能性もある。

今後、地域偏在等の課題については、市側から関係団体に働きかけることや、この度設立する人材バンク等を活用し、市が先導して地域クラブを立ち上げていくことが必要になるだろうと考えている。

委　　員　：　先日、新聞で兵庫大学から学生の登録を促すような報道があったかと記憶しているが、進捗等はいかがか。

事 務 局　：　昨年度から兵庫大学とは連携についての協議を進めており、先日記者発表を行った次第である。兵庫大学では、授業の一環として、大学生が地域クラブ運営を行うこととしている。その他、兵庫大学で実施される「かこ☆くら」に参加する生徒が、兵庫大学所有のスクールバスに乗って移動可能となることや、また、サポーターに対する研修について、兵庫大学の知見を活かした内容とするなど、連携事項について紹介した。

今後も兵庫大学とは連携を深めていきたく、サポーターバンクへの学生の登録も、大学から学生に働きかけをされると確認している。

委　　員　：　既に稼働している先行実施の種目で、問題やトラブルはあったのか。

事 務 局　：　大きな事故等は無いが、部活動が並行して稼働しており、先行実施したクラブと部活動が並行して一緒の場で活動しづらいと聞いている。採用される保険の違いや、場所の調整についても、今までは学校内で教員同士だけで行ってきたものが、外部指導者との調整が増えるなど、先行実施特有の課題がある。今後、９月から平日の活動も増えるため、課題が出れば、随時対応する。

委　　員　：　保護者からの不満の声はないか。例えばサッカーで、２～３人しかお

らず、活動できないといったチームがある等もなく、順調に進んでいるのか。

事 務 局 ： 特にサッカーについては、現在６チームあるが、大会に出ることができない程こどもの数が少ないクラブもある。特に保護者の方から意見はないが、クラブ側から「このままクラブをやっていけるのか」と不安の声はある。サッカーだけではなく、こどもが入っていないクラブもあり、中学生がすべて「かこ☆くら」に入る時期まで、そういったクラブを何とか繋ぎとめることが課題と考えている。

委 員 ： 「かこ☆くら」へは自由参加のため、活動に参加する生徒が激減し、生徒指導上の問題の増加を懸念している。

また、19 時から 21 時という活動時間のクラブが多く、帰りが遅いことはもちろん、家にきちんと帰れるのか、19 時からスタートする場合、夕食はどうするのか等が気になる。

また、会費の問題もある。月会費となると、途中で辞める子が増えた時に本当にクラブが維持できるのか等の運営上の問題も出てくる可能性がある。

こういった点も注意深く観察し、問題が起きた際はうまく対応していただきたい。

教 育 長 ： まもなく２学期が始まり、様々な効果や課題も出てくるであろう。また報告する。

以上、２件について報告

○ 教育指導部長諸報告

（１）令和８年度全国中学校体育大会の出場選手について

令和８年度全国中学校体育大会の出場選手について報告した。

教 育 長 ： 全国大会に多くの生徒が出場し、日本一になった種目もあり喜ばしいことだ。

以上、１件について報告

○ 閉 会 午後３時 13 分